

産廃処理業の

(112)

優良化を考える

青森市に拠点を置く西田組は、土木建設、解体工事、廃棄物処理の三つを柱に事業展開している。もともと建設業からスタートしたが、環境問題への注目が高まるのに伴い、廃棄物処理業のウエイトも年々高まっていった。優良性評価制度の導入取得にも積極的で、青森県内では早い時期に適合確認を受けた。また、民間の自主的取り組みで処理業のネットワーク化、高度化を目指すエコスタッフ・ジャパン(EESJ)にも参加している。西田文仁専務に、優良性認定やEESJの意義について聞いた。(黒岩修)



の道徳的・再利用などを実施している。リサイクル率は現状8割程度だ。法律の改正や顧客ニーズの変化に対応していくことが、廃棄物処理業で生き残っていくために不可欠なことだと考えている。

「廃棄物処理では求められるものが高度になっていくが、」

「高度化する廃棄物処理に当たっては、処理業者が単独で判断し行動するのではなく、行政や非営業者と連携して十分話し合うことが必要だ。」

「高度化する廃棄物処理に当たっては、処理業者が単独で判断し行動するのではなく、行政や非営業者と連携して十分話し合うことが必要だ。」

他社との差別化の手段

「情報公開については、財務面はある程度のとらえておく必要がある。特に出るべきでない情報は、特に出さないと、顧客の立場からすれば、決算関係まで開示されていけば安心して委託することができると考えている。」

「私は今後にも期待している。顧客に対する信頼性の向上にはつながっていくだろう。また、今後制度を見直していく中で許可申請時に優遇措置を設けたり、認定業者がより仕事を獲得しやすいような制度を設けていく。」

「産廃業者の条件をいかに感している。」

「優良業者の条件をいかに感している。」

「高度化する廃棄物処理に当たっては、処理業者が単独で判断し行動するのではなく、行政や非営業者と連携して十分話し合うことが必要だ。」

「高度化する廃棄物処理に当たっては、処理業者が単独で判断し行動するのではなく、行政や非営業者と連携して十分話し合うことが必要だ。」

「高度化する廃棄物処理に当たっては、処理業者が単独で判断し行動するのではなく、行政や非営業者と連携して十分話し合うことが必要だ。」

法改正や顧客ニーズの変化に対応

「高度化する廃棄物処理に当たっては、処理業者が単独で判断し行動するのではなく、行政や非営業者と連携して十分話し合うことが必要だ。」

「高度化する廃棄物処理に当たっては、処理業者が単独で判断し行動するのではなく、行政や非営業者と連携して十分話し合うことが必要だ。」

「高度化する廃棄物処理に当たっては、処理業者が単独で判断し行動するのではなく、行政や非営業者と連携して十分話し合うことが必要だ。」

「高度化する廃棄物処理に当たっては、処理業者が単独で判断し行動するのではなく、行政や非営業者と連携して十分話し合うことが必要だ。」

西田組
専務兼環境部長

西田文仁氏

「高度化する廃棄物処理に当たっては、処理業者が単独で判断し行動するのではなく、行政や非営業者と連携して十分話し合うことが必要だ。」